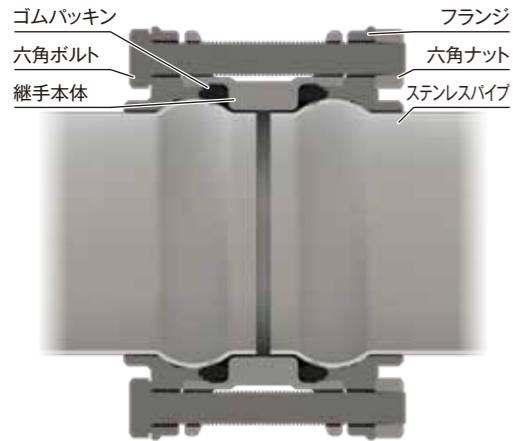


ナイスジョイントの構造



拡管機 NE7型



1. パイプの切断と取り取り

○バンドソーなどでパイプを必要寸法に対し直角に切断してください。

○面取機、ヤスリ、リーマを使用して内面と外面の取り取りをきれいに除去してください。



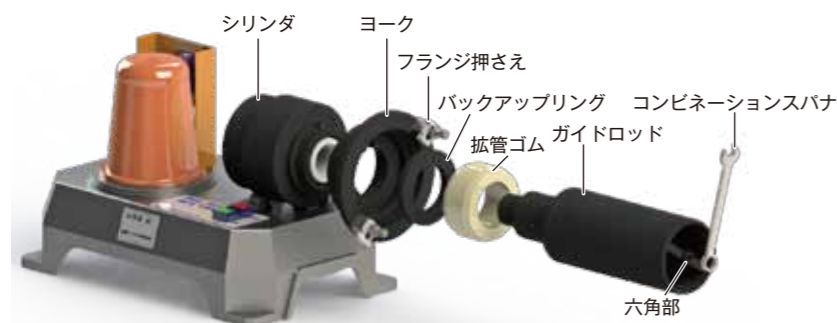
注意

- 斜め・段差切りにならないよう注意してください。
- 取り取りが不十分な場合、ゴムパッキン又は拡管ゴムを損傷し拡管不足等により漏れの原因となります。

2. アタッチメントのセット

○ヨークの切欠きをシリンダのピンに合わせ取り付けます。

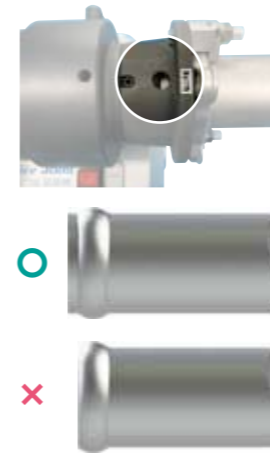
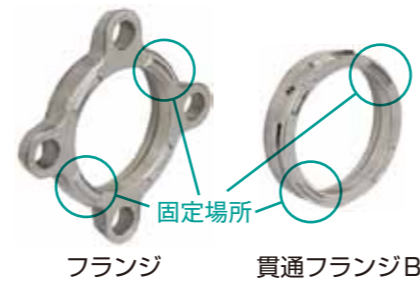
○ガイドロッドに拡管ゴム・バックアップリングを取り付け六角部を付属のコンビネーションスパナで確実に締め付けてください。(拡管ゴムはガイドロッドとバックアップリングに挟んだ状態で取り付けます。)



3. フランジとパイプのセット

○使用する継手のフランジをヨークに取り付け、固定場所(突起部分)をフランジ押さえで固定し付属のコンビネーションスパナで六角ナットをヨークとフランジの間隙がなくなるまで増し締めします。

○パイプをガイドロッドに挿入し確認穴でヨークに密着したことを確認してください。



注意

- フランジ押さえの六角ナットの増し締め不足は拡管不足の原因となります。
- パイプの差し込み不足は配管の曲がりや漏れの原因となります。

4. 拡管作業

○緑色のスイッチ「拡管」を押してください。

○15秒~20秒程度で拡管が完了します。拡管完了後は自動でガイドロッドが復帰します。

○緊急時は赤色のスイッチ「非常停止」を押してください。

○パイプの拡管終了後は付属のコンビネーションスパナでフランジ押さえを外してください。(フランジと拡管パイプが取り外しの際に外れにくい場合は付属のプラスチックハンマーで軽くたたいて取り外してください。)



注意

- 同じフランジでの拡管は2回まで可能です。

5. 拡管量の確認

○付属の限界ゲージで拡管のフランク面の拡管量を確認してください。パイプ端面にゲージ切欠き端面を押しつけ、通り側・止り側を確認する。(拡管確認はパイプのビード部以外で確認してください。)

○確認はアタッチメント交換時又は拡管10回毎に1回程度実施してください。

○拡管ゴムは消耗品です。(拡管ゴムの交換目安は使用するサイズや環境により多少異なります。)

注意

- 止りで通過するパイプは漏れの原因となるので使用しないでください。



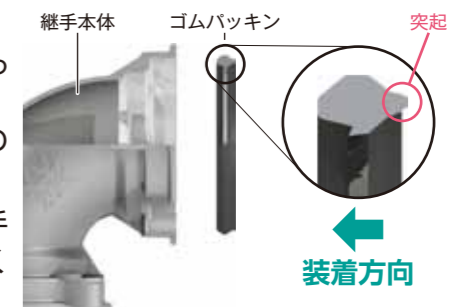
6. 継手の確認

○継手本体にゴムパッキンが入っているか確認してください。(交換する時はゴムパッキンの向きに注意してください。)

○パイプを挿入する際には継手に対してまっすぐ挿入してください。

注意

- ゴムパッキンを逆向きにセットしないでください。
- パイプ挿入時にゴムパッキンが噛み込まないように注意してください。



7. フランジの締め込み

○継手本体側から六角ボルトを挿入してください。

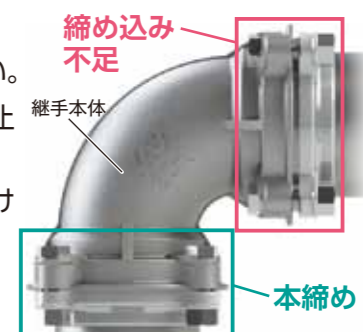
○六角ナットは片締めにならないよう対角線上に締め付けてください。

○フランジ面が継手端面と密着するまで締め付けてください。

○ボルト締め付けトルク
75~100Su ... 68N・m

注意

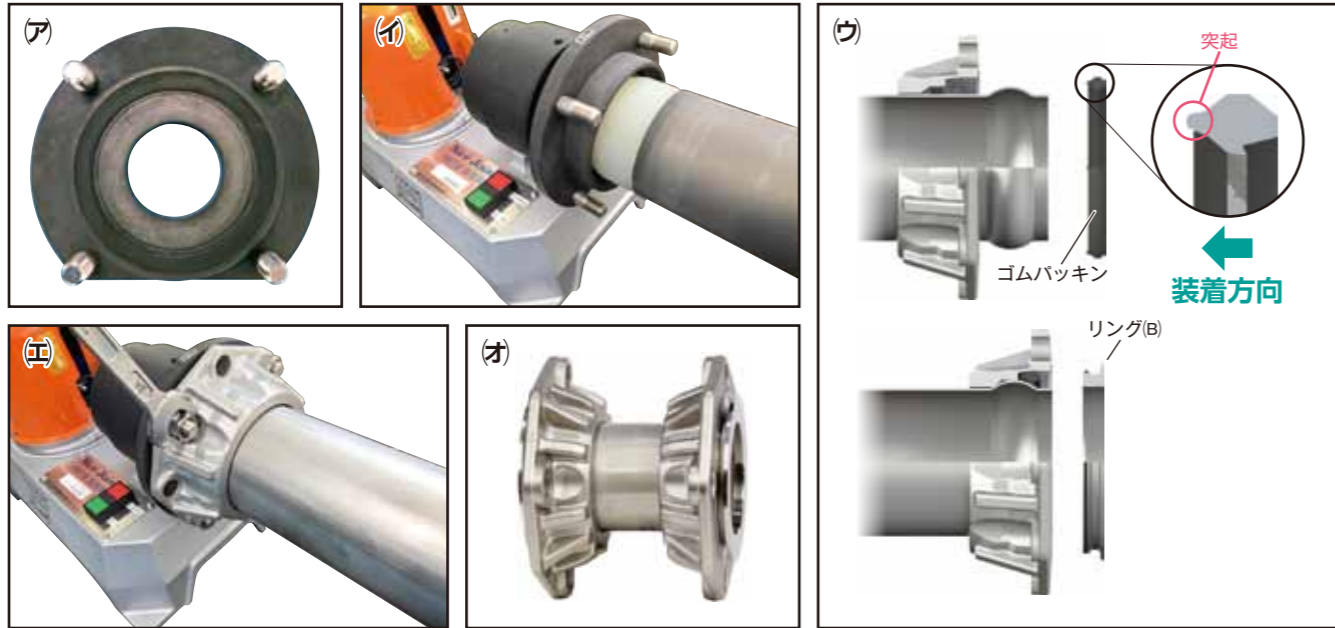
- フランジの締め込み不足は漏れの原因となります。



【注】詳しくは施工マニュアルをお読みください。

8. F式フランジ拡管作業（両側10Kフランジ接続の場合）

- 両側F式フランジの拡管は別途F式フランジ用ヨークが必要です。(ア)
- NE7型にF式フランジ用ヨーク、バックアップリング、拡管ゴム、ガイドロッドを取り付けます。(イ) F式フランジからゴムパッキン、リング(B)を取り外します。(ウ) F式フランジを付属の六角ナットで固定し、パイプをガイドロッドに挿入してから拡管をスタートします。(エ)
- 限界ゲージで拡管量確認後、ゴムパッキンの向きに注意し取り付け、リング(B)を取り付けます。(オ) (リング(B)は装着時の倒れ防止のために、Oリングを入れています)
- 反対側も同様に行い、両側F式フランジ拡管完了です。(オ)



9. 注意事項

①ソケット用フランジ

- ソケットの六角ボルト挿入側フランジに回り止めが付いています。ソケット両側に回り止めが付いているフランジを付けると配管出来ないで注意してください。

回り止め有



フランジ

ソケット用フランジ

②貫通フランジ（詳細は施工マニュアルをご覧ください）

- 貫通フランジ上部の六角ボルトを外し分解します。
- 貫通フランジB（内側）を使用し拡管を行い、壁貫通後に貫通フランジA（外側）を取り付けます。
- 再度六角ボルトで固定します。



貫通フランジA

貫通フランジB

10. パイプ切断寸法

①エルボ返し等に使用するパイプ切断最小寸法

呼び径	75Su	80Su	100Su
最小長さ	199	217	243
90°エルボの芯間寸法	330	370	428

(詳細は施工マニュアルをご覧ください)

②スパナで締め付け時のパイプ切断最小寸法

呼び径	75Su	80Su	100Su
最小長さ	145	155	175
90°エルボの芯間寸法	276	308	360

ナイスジョイント(75~100Su)用六角ボルトの種類(呼び径はSu) ※六角ボルトの種類 M16×55L / 65L / 110L / 120L / 130L / 140L

品種(型式)	呼び径	ボルト長さ(大径側)	ボルト長さ(小径側)	品種(型式)	呼び径	ボルト長さ(大径側)	ボルト長さ(小径側)	品種(型式)	呼び径	ボルト長さ(大径側)	ボルト長さ(小径側)
90°エルボ(NJLE)	75,80	55L	8本	径違いチー(NJLRT)	75×50	55L	55L	径違いソケット(NJLRS)	75×50	110L	4本
45°エルボ(NJL45E)	100	65L	8本		75×60						
チー(NJLT)	75,80	55L	12本		80×50				120L		
	100	65L	12本		80×60						
径違いエルボ(NJLRE)	75×50	55L	4本		80×75	140L					
	75×60				65L		80×75		140L		
	80×50			65L		100×50	130L				
	80×60				65L	100×60		140L			
	80×75	65L	100×75	140L							
	100×50		65L		100×80	140L					
	100×60	65L		ソケット(NJLS)	75		110L	4本			
	100×75		65L	80	120L						
100×80	65L	100		130L							
								フランジアダプタ(NJLFM)	75×65A	55L	4本
								80×80A			
								100×100A			
								100×125A			

■ 取扱い注意事項

- 使用後1年毎、現場終了時のどちらかに該当した場合は必ず購入先に点検を依頼してください。
- 拡管作業はナイスジョイント施工要領書、施工マニュアルに従い正確に行ってください。
- ナイスジョイント以外のメカニカル継手へ使用しないでください。不具合発生の原因になります。
- 電源電圧は100Vです。電圧降下状態では拡管量不足が発生します。
- 使用前は必ず付属のアースクリップを使用してアース工事を行ってください。
- 拡管機は、-5℃~40℃の作業環境の範囲で使用してください。
- 拡管機は湿度の高い場所、水などの異物が混入する場所では保管・使用しないでください。
- 部品の破損、紛失、弊社の了解なしで追加工した場合は保証対象外となり、リースについては代金を別途請求させていただきます。
- 拡管ゴムは消耗品です。適時交換してください。
- ガイドロッドを持って運搬しないでください。(折れる可能性があります)
- 本体は傾けた状態で保管・使用しないでください。タンク内のオイルが流出します。
- 本製品は薄肉ステンレス配管用です。パイプの適用をご確認ください。(一般配管用ステンレス鋼管 JIS G 3448)

■ 拡管機トラブル こんなときには

不具合内容	確認・原因	お客様
作動しない	電源の確保	電源差込状態の確認
	電圧降下	タコ足配線など電圧状態確認
	スイッチ接触不具合	スイッチの外観で異物があれば除去
拡管量不足	電圧降下	タコ足配線など電圧状態確認
	フランジ入れ忘れ	フランジ締め込み確認
	フランジ片締め	均等に締め付ける
	同じフランジで連続拡管	新品のフランジで拡管
	ガイドロッド締め付け不足	ガイドロッド締め込み確認
	バックアップリングなし	バックアップリング有無確認
オイル漏れ	拡管ゴム摩耗	新品の拡管ゴムと交換
	本体を傾けた使用	ポンプ本体を垂直に使用する
パイプが抜けない	拡管ゴムの劣化	新品の拡管ゴムと交換
	パイプのバリ処理不足	バリの除去
	拡管ゴム圧縮変形	新品の拡管ゴムと交換

オーエヌ工業株式会社

- 新本社・工場 〒708-0011 岡山県津山市上田邑3235-2 TEL (0868) 28-0171 FAX (0868) 28-4254
- 北海道営業所 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西2丁目8番地 さっけんビル6F TEL (011) 252-0010 FAX (011) 252-0015
- 東北営業所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-1-29 仙台北町ホンマビルディング3F TEL (022) 781-5586 FAX (022) 781-5587
- 東京営業所 〒104-0043 東京都中央区湊1-1-12 H S B 鐵砲洲3F TEL (03) 3551-9491 FAX (03) 3551-9488
- 大阪営業所 〒532-0012 大阪市淀川区木川東3-4-18 中村第2ビル2F TEL (06) 6101-0260 FAX (06) 6101-0234
- 中国・四国営業所 〒730-0029 広島市中区三川町7-7 三川町パーキングビル11F TEL (082) 225-7200 FAX (082) 225-7201
- 九州営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-7-22 ブックローン福岡ビル4F TEL (092) 406-3192 FAX (092) 406-3193
- ホームページアドレス <https://www.onk-net.co.jp/>
- Eメールアドレス onk@onk-net.co.jp

